

生ごみ分別の経緯

- 平成10年度 生ごみ減量を目的とした有志による実証実験からスタート。
- 平成11年度 830世帯をモデル地区と定め、分別収集を開始する。なお、戸建住宅はステーションに袋出し、団地ではバケツ出しの収集方法で行う。
- 三崎区(中ノ坪北・社町内会) 310世帯 袋出し
豊明団地(5階建て 5棟分) 270世帯 袋出し
豊明団地(5階建て 6棟分) 250世帯 バケツ出し
- 平成12年度 豊明団地(5棟分)袋出し収集をバケツ出し収集に変更する。
豊明団地はすべてバケツ出し収集方法となる。
- 平成13年度 三崎区のごみ袋を「生分解性プラスチック製」に変更する。
従来のポリエチレン製から、堆肥化時に二酸化炭素CO₂と水に分解する生分解性プラスチック専用袋に切り換える。
- 平成14年度 収集地区を拡大し、対象世帯を1,835世帯とする。
三崎区(中ノ坪北・社・中ノ坪南・三崎・高鴨・井ノ花・丸ノ内町内会)7町内会(約1,315世帯)全域に地区拡大する。
- 平成17年度 「沓掛堆肥センター」を建設する。 総事業費 約1億3000万円
- 平成18年度 4月から沓掛堆肥センターが稼動開始する。
平成19年2月、豊明団地約700世帯を加え、対象世帯を2,500世帯とする。
- 三崎区(7町内会) 1,315世帯 袋出し
豊明団地(32棟分) 1,185世帯 バケツ出し
- 平成19年度 19年7月から「とよあけEco堆肥」の有料販売を開始。
10月から「ゆたか台区」、「坂部区」、「前後区」の2,500世帯を新たに
加え、対象世帯を約5,000世帯とする。
- 平成20年度 10月から「西川区」、「吉池区」、「中島区」の3,000世帯を新たに
加え、当面の目標である約8,000世帯を対象に事業を展開。
- 平成21年度 堆肥センターにおける堆肥化業務の委託先を、あいち尾東農業協同組合から
社会福祉法人豊明福社会へ変更する。
- 平成25年度 学校給食の調理くず及び残さいの試験的堆肥化開始。



豊明市沓掛堆肥センター (愛称:エコポとよあけ)